

長期経営ビジョン「UACJ VISION 2030」 アルミニウムを究めて、サステナブルな社会へ

外部環境変化から
予想される未来の社会



社会構造の変化

- 新興国の経済成長による購買力と需要の向上
- 人口減少による国内の市場縮小



持続可能な社会の実現

- 社会全体で地球環境を保護する意識の高まり
- 豊かな社会と持続可能な社会の両立へ



技術革新

- モビリティ革命による素材の新たな用途が拡大
- デジタル技術の革新によるビジネスモデルの変化

長期経営ビジョン4つの方針

- 成長分野や成長市場の需要捕捉により、より広く社会の発展に貢献する
- 素材+αで、バリューチェーンおよびサプライチェーンを通じた社会的・経済的な価値の向上に貢献する
- 新規領域への展開により、社会課題の解決に貢献する
- 製品ライフサイクルでのCO₂削減により、環境負荷の低減に貢献する

2025

+αの付加価値

既存分野



ガバナンス、コンプライアンス、品質、安全

UACJは、2021年5月、今後10年における貢献を描いた長期経営ビジョンを発表。
100年に亘り究めてきた技と術を集結し、アルミニウムの可能性を広げることで、
持続可能で豊かな社会の実現に貢献していきます。

2030の 領域イメージ

新規領域
+αの付加価値
既存分野

環境負荷低減

リサイクル率向上等による
サプライチェーン全体での環境負荷低減

貢献する分野

モビリティ



人々の移動・交通に
軽やかさを……

- あたらしい移動体
- 未来の輸送インフラ
- 輸送サービス

環境・エネルギー



これからの地球環境に
軽やかさを……

- 発電事業への貢献
- 循環型社会の構築
- 省エネ社会

ライフスタイル・ ヘルスケア



日々の暮らしや労働に
軽やかさを……

- 食の未来
- より豊かな生活へ
- 医療・介護の充実

2030年度目標

財務目標

売上高
8,000億円以上

営業利益率
6%以上

ROE
10%以上

ROIC
(税引前営業利益を基に算出)
10%以上

非財務目標

サプライチェーン
全体での
CO₂排出削減量
22%削減

(2019年度BAU※比)

※ BAU (Business as usual) :
何も対策を講じずに現状(生産
量、品種構成)を維持した状態

「UACJ VISION 2030」の実現に向けた 4つの貢献領域の拡張イメージ

成長市場・分野への注力と新規事業の創出により、事業領域の拡大と利益率の向上を図っていきます。

① 成長分野・市場への注力

成長市場（北米、東南アジア）と成長分野（缶、自動車）を中心に規模を拡大

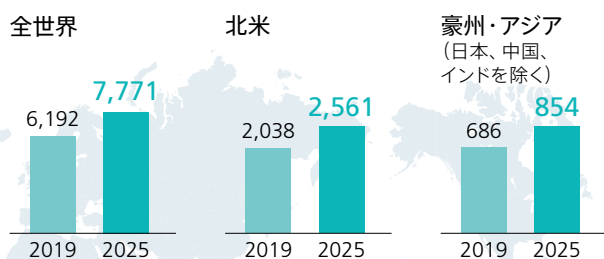
UACJは、北米のTAA※1、UWH※2、タイのUATH※3に対して集中的に先行投資を行い、生産能力を増強してきました。この能力を最大限に発揮して、全世界で相当な需要増大が予想される缶材、およびEV化による車体軽量化ニーズがより一層強まることから、アルミニウム製品へのシフトが期待される自動車材を成長分野と位置づけ、これらの分野の市場拡大が見込まれる北米、アジアを中心に事業規模の拡大を図っていきます。

※1 Tri-Arrows Aluminum Inc.

※2 UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc.

※3 UACJ (Thailand) Co., Ltd.

缶材需要の推移(千トン)



出典: CRU aluminium rolled products market outlook november 2020 report

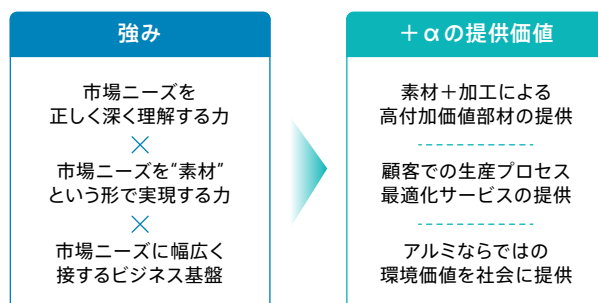
北米地域中心に
世界的に缶材需要が増加

② 素材+αの付加価値拡大

素材に新たな価値（塑性加工、リサイクル、モジュール、サービス等）を付し、稼ぐ力を向上

UACJは、板・自動車部品・押出・箔・鋳鍛・加工品という多彩な事業を有しており、その先に強固な顧客基盤があります。そこで幅広く接する市場ニーズを正しく深く理解し、“素材”という形で実現できることが強みです。技術優位性とビジネス基盤を最大限に活かして、これまでになく加工、生産プロセスに関するビッグデータの活用、リサイクルなどによる環境価値の創出といった、“素材+α”となる価値を提供し、売り上げと顧客基盤の拡大を図っていきます。

強みと提供価値例



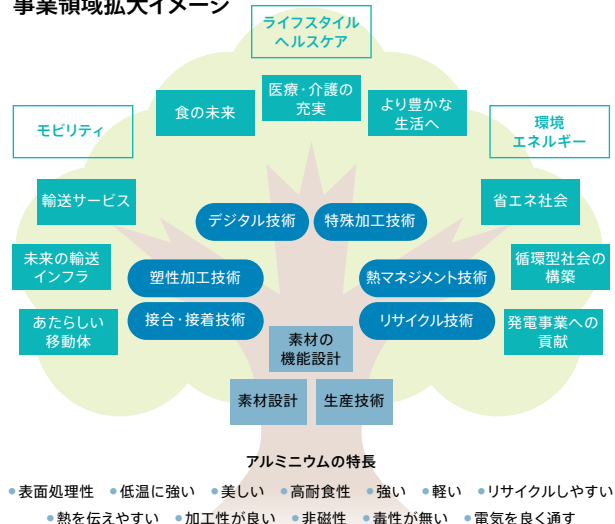
③ 新規領域の創出・拡大

①ライフスタイル・ヘルスケア、②モビリティ、③環境・エネルギーの3領域へビジネスを拡大

アルミニウムは、多彩な特性を持ちます。そこに、素材設計、機能設計、生産技術といった「基礎技術」、接合・接着技術や熱マネジメント技術などの「応用技術」を掛け合わせることで多種多様な製品を生み出すことができます。UACJは、これら基礎技術、応用技術に磨きをかけ、新たな領域での事業展開を目指します。

また、板・押出・加工品事業の組み合わせから自動車部品事業を展開したように、6つの事業を活かして、各事業の隣接領域で得たノウハウ、および事業間シナジーを土台に新領域の創出を図っていきます。

事業領域拡大イメージ



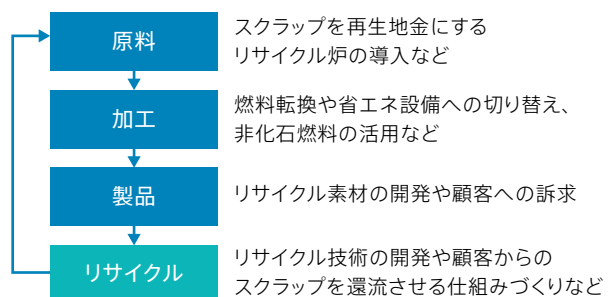
④ 環境負荷低減

リサイクル率向上等によるサプライチェーン全体での環境負荷低減

アルミニウムの製品ライフサイクルにおいては、新地金製造時のCO₂排出量が最も多く、使用済みアルミニウムを地金として再利用すると新地金製造時と比べてCO₂排出量を97%削減できます。

UACJでは、自社内での製造工程時のCO₂排出量削減や、アルミニウム製品の供給を通じた製品軽量化や熱効率向上などに加えて、リサイクルを推進。2030年度目標として2019年度BAU※比22%のCO₂排出量削減を目指します。

バリューチェーン全体で取り組む環境負荷低減



※ BAU (Business as usual) : 何も対策を講じずに現状(生産量、品種構成)を維持した状態

「UACJ VISION 2030」における マテリアリティごとの非財務目標

成長市場・分野への注力と新規事業の創出により、
事業領域の拡大と利益率の向上を図っていきます。

UACJグループは、サステナビリティ活動を企業経営の存在意義が問われる中核要素として捉え、グループ一体となって推進していく必要があると考えています。そのために、UACJグループが社会とともに持続的に成長していくうえで優先的に取り組むべき「重要課題(マテリアリティ)」を特定しました。UACJグループは、特定した6つのマテリアリティについて、UACJグループだからこそ貢献できること、社会へ提供できる価値についても定めています。

今後は、このアクションプラン／KPIにもとづき、PDCAサイクルを活用した継続的な活動を推進することで、「2030年のありたい姿」の実現を目指していきます。



UACJグループのマテリアリティ	特定理由	評価指標	2030年度目標	2023年度目標
気候変動への対応	アルミニウムのリサイクル特性を活かし追求することが、サプライチェーン全体の温室効果ガス発生抑制につながり、社会貢献度が高い。	サプライチェーン全体でのCO ₂ 排出量の削減量(2019年度BAU比)	22%削減	—
製品の品質と責任	ものづくり企業としての競争力の源泉であり、社会とUACJグループ双方の持続可能性に直結する。	重大品質不具合件数	ゼロ	1件以下
		客先クレーム件数(素材有責)	2020年度比半減	10%減(前年比)
労働安全衛生	ものづくり企業として従業員の安全確保は、事業継続上、根本に位置づけられる。	重篤災害発生件数	ゼロの継続	ゼロ
		総合度数率	2.45	4.00
人権への配慮	グローバル企業として、グループ従業員並びにお取引先の人権への配慮は、事業継続上、根本に位置づけられる。	人権デューデリジェンス実施と、結果を踏まえた目標づくり、アクションプランの実行	UACJグループ国内および海外の主要な事業所で実施	4製造所で実施(福井、タイ製造所に加え、他2事業所)
		行動規範、人権、ハラスメント関連の教育実施率	100%	96%(ハラスメント研修は100%実施率継続)
多様性と機会均等	従業員の多様性、および登用・処遇における機会均等の確保は、将来の成長に向けて必要不可欠と位置づけられる。	管理職(役員含む)に占める女性比率	15%以上(最低15%を目標とし、政府が定める30%を可能な限り目指す)	4%
人材育成	価値創造の源泉である従業員の能力開発と定着は、将来の成長に向けて必要不可欠と位置づけられる。	後継候補者計画の実施率	100%	国内グループ会社展開
		重点分野に関する教育支援活動の受益者数	500人/年	300人/年

— マテリアリティ特定プロセス

特定にあたっては、取締役・執行役員などのマネジメント層だけでなく、製造や営業の現場に携わる社員を含めた国内外グループ会社の社員も対象としたワークショップの開催など、約2年間で5つのステップを実行しました。

2019年から開始したワークショップは延べ4回、86人

が参加しました。さらに外部識者への意見聴取や、役員による最終検討・承認を経て、6つのマテリアリティとそれに関連するSDGsを特定すると同時に、マテリアリティごとに「2030年のありたい姿」と「アクションプラン／KPI」を設定しました。

